

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 11 日現在

機関番号：13301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25780469

研究課題名(和文)戦後初期の子ども・青少年を取り巻く諸問題とその取り組みに関する教育史研究

研究課題名(英文)Studies of the History of Education regarding Problems surrounding Children and Youth in the early post-World War II period

研究代表者

鳥居 和代(TORII, Kazuyo)

金沢大学・学校教育系・准教授

研究者番号：30422570

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では次のことが明らかとなった。(1)1946年に開始した神戸市の「方面教育」は、青少年の「不良化」防止を機に誕生した学校教師を中心とする校外教育であり、1950年代には長期欠席生徒の「救済」や安全教育へと活動領域を拡げていった。60年度からは、とくに被差別部落の子どもの長期欠席問題に対応するため、訪問教師制度が新たにスタートした。(2)千葉県の沿岸漁業地域では、1950年代に子どもの長期欠席問題が深刻化した。主に中学校において長欠対策教員や補導学級が設けられ、長期欠席生徒の家庭訪問や学習指導などが行われた。

研究成果の概要(英文)：The findings of this study are as follows: (1) Kobe City's out-of-school education system known as homen kyoiku program, begun in 1946, was formed in response to growing juvenile delinquency in which school teachers took on the responsibility to address the problem. In the 1950s, the program's sphere of activity expanded to save long-term absent students as well as safety education. In the 1960s, the visiting teacher system was begun in Kobe City to help solve the problem of long-term school absence surrounding students particularly in discriminated communities. (2) In the coastal fishery regions in Chiba Prefecture, the problem of long-term school absence became more serious in the 1950s. The teacher system and special classes for long-term absent students were instituted in mainly junior high schools, then visiting homes and guidance of learning was conducted for those students.

研究分野：近現代日本教育史

キーワード：教育問題 長期欠席問題 基地問題 方面教育 交通安全指導 訪問教師 補導学級

1. 研究開始当初の背景

(1)戦後初期の日本の教育の歴史については、戦後教育改革や占領期教育史に関する研究の蓄積が数多くある。一方では、教育基本法や6・3制をはじめ、主として教育の理念や学校制度改革にかかわる基礎的研究が進められ、このような改革を経て構築された戦後民主教育が1950年代以降に「逆コース」「反動化」のなかで変質していったとする歴史叙述がなされてきた。他方では、こうした通説的な歴史叙述の捉えなおしが図られ、文部省vs.日教組の対立構図や、国家政策の「反動化」への抵抗勢力としての教育労働運動の位置づけなど、保革対立の二元的図式を再検討し、戦後教育の新たな歴史像を構築する試みがなされつつある(森田尚人・今井康雄・森田伸子『教育と政治 戦後教育史を読みなおす』勁草書房、2003年。小山静子・菅井鳳展・山口和宏編『戦後公教育の成立 京都における中等教育』世織書房、2005年など)。

もちろん、戦後教育改革や戦後教育の捉え方をめぐる問題へのアプローチは、それ自体、論争的であり重要な課題である。しかし、このような研究動向がみられる一方で、そもそも教育の営みにおいて主役であるべき子どもや青少年が敗戦後どのような状況に置かれていたのか、すなわち、戦後初期の子どもや青少年を取り巻く社会・生活・文化とのかかわりにおいて、当時どのような諸問題が生起していたのかを捉えた研究は、いまだ立ち遅れているのが現状である。

1977年刊行の『日本子どもの歴史』(全7巻)は、<子ども>の歴史についてはこれまでほとんど見るべきものがないとし、「<子ども>という社会的存在がどのように取り扱われ、またどのように生きてきたかを、基礎的生活・学習・遊び・児童観などにわたって総合的に把握すること」をねらいとした。筆者もまた、本書の視点に基本的に同意するものであるが、この30年以上前の指摘にもかかわらず、敗戦後に子どもや青少年がどう育てられ、どのように生きてきたのかを意識的に主題化したのは、中野光『戦後の子ども史』(金子書房、1988年)や、戦争孤児・浮浪児に関する研究(逸見勝亮 1994・2007)を除いては、ほとんど確認できない。

(2)筆者はこれまで、戦前・戦中の日本における青少年の逸脱をめぐる教育の歴史的事象を主な研究対象としてきた。近年は研究対象を戦後史にまで拡げ、敗戦直後の政策サイドにおける「青少年問題」への取り組みを文部省の動向に注目して明らかにした。こうしたなかで、課題として浮かび上がってきたのは、第一に、子どもや青少年の非行・逸脱の問題にのみ関心を集中させているのは、戦後初期の重層化・複雑化した子ども・青少年をめぐる諸問題の様態を十全に捉えることができないこと、第二に、国や政策サイドが敗戦直後、「青少年問題」に必ずしも有効な手立

てを講じえなかったことを踏まえるならば、政府の動きだけでなく、各地域の動きを追うこと、さらに先進的な地域の取り組みへの着眼が不可欠であることであった。このような課題意識から、本研究では、非行・逸脱問題、長期欠席・不就学問題、年少労働問題などがそれぞれ複合的に立ち現れる場面や事象を選定し、検討を進めることにした。

2. 研究の目的

(1)本研究は、敗戦後の荒廃のなかに生きて子どもや青少年の生身の姿を捉え、彼・彼女たちの生活現実と相即不離なものとしてあった諸課題とは何であったのか、そうした課題に教育関係者はいかに対峙し、肉迫し、応えようとしたのかを解明し、「子ども・青少年を取り巻く諸問題」または「青少年(教育)問題」の歴史として総体的に描き出すことをねらいとする。なかでも、戦後初期の子どもや青少年をめぐる社会・生活・文化と密接なかかわりのあった上述の諸課題 非行・逸脱問題、長期欠席・不就学問題、年少労働問題 に主として着目する。

これらの問題は、上述の『日本子どもの歴史』や『戦後の子ども史』等でも扱われていないか、概要のみ触れられるにとどまり、未解明な部分が多い。もっとも、長期欠席・不就学問題については、古くは戦後初期の夜間中学校の研究に始まり、近年では、高知県の福祉教員の取り組みを扱った研究(倉石一郎 2005・2007)、東京・山谷地区の簡易宿泊所地域の実践を取り上げた研究(小林正泰 2006)、福岡県・筑豊地域の長欠・不就学児教育に焦点を当てた研究(農中至 2010)などが発表されている。しかしながら、長欠という個別の問題史としてのみならず、やなど他の諸問題との重層的な構造を視野に入れつつ、戦後初期の子ども・青少年を取り巻く教育問題という、より総体的な枠組みにおいて歴史叙述がなされる必要がある。

(2)本研究は、4年間の中で以下の2点について事例研究を行うことを目的とする。

神戸の子どもたちの「方面教育」... 校外教育の歴史研究(都市の事例)

敗戦後まもない1946年5月、青少年の不良化が社会問題となるなかで、神戸市の校内外教育として誕生した「方面教育」の歴史的展開を明らかにする。神戸市の学務課、市教育委員会、学校教師などが、都市に生きる子どもたちを対象に、安全教育、「問題児童生徒」の指導、長期欠席・不就学児の「救済」等がいかに取り組んだのかを明らかにする。

千葉県銚子市・九十九里浜沿岸の子どもたちの労働と教育... 年少労働と長欠問題の歴史研究(村の事例)

1950年代の千葉県銚子市や九十九里浜沿岸の子どもたちの教育・労働問題を明らかに

する。幼少からイワシ漁などに従事し、長欠・不就学となって「不良化」が懸念されてもいた漁村の子どもの就学保障のために、教育関係者がどこに問題を見出し、いかなる対応をしたのかを明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は、神戸市と千葉県銚子市・九十九里浜沿岸を対象とした地域の事例研究を二本柱とする。平成 25 年度は、戦後初期の子ども・青少年を取り巻く諸問題に関する基礎文献を収集しつつ、神戸市方面教育の結成とその機構整備に関する資料を現地で調査・収集する。平成 26 年度は、神戸市内の小学校を対象に、方面教育の活動実態に関する資料調査・収集および関係者への聞き取り調査を行う。平成 27 年度は、銚子市や九十九里浜の漁業と生活、就労の実態を調査しつつ、短編ドキュメンタリー映画『九十九里浜の子供たち』の舞台ともなった、銚子市立第二中学校等を訪問し、長期欠席の子どもに対する学校の取り組み、「補導学級」の実践について調査を行う。平成 28 年度は、千葉県の長期欠席問題にかかわって当時を知る関係者の方々に聞き取り調査を実施する。

4. 研究成果

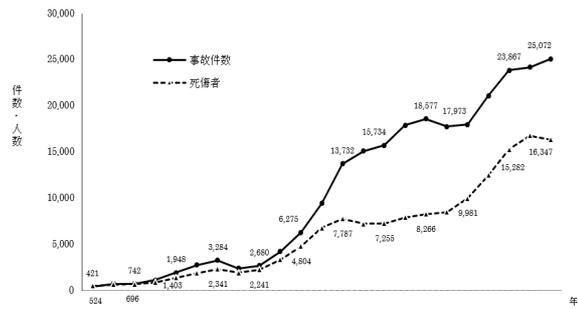
(1) 敗戦後まもない 1946 年 5 月、港都・神戸市の新たな校外教育として誕生した「方面教育」の 1950 年代までの歴史を追った。草創期の神戸市方面教育が、児童・生徒の自主的行動の実践指導という教育理念のもと、戦前における「べからず式」の神戸保導聯盟の活動との連続性を持たざるを得なかったこと、また 50 年代に入ると、活動当初にみられた青少年の不良化防止のみならず、子どもの長期欠席・不就学問題への対応や（交通）安全教育などに方面教育の重点課題がシフトしていったことを明らかにした。本成果は、神戸史学会『歴史と神戸』に論文として掲載された。

(2) 敗戦後に神戸市で開始した「方面教育」と、その後の「訪問教師」制度の展開に着目し、長期欠席・不就学問題への学校や教育委員会の取り組みの一端を解明した。とくに、子どもの「教育を受ける権利を守る」という理念に基づき、被差別部落の子どもを中心とした長期欠席・不就学問題に対応した訪問教師の活動の可能性と限界、すなわち、方面教育から訪問教師制度への展開過程には、子どもが置かれた非人間的な生活現実を直視し、既存の学校や教師の価値観を相対化していく一定の可能性があったこと、しかしながら「同和」問題の解決に課題を残したことを明らかにした。本成果は、教育史学会『日本の教育史学』に論文として掲載された。

(3) 神戸市の方面教育活動において 1950 年代後半から 60 年代にかけて活発化していく

交通安全指導の歴史を検討した。高度成長期における都市部の交通量の増大と自動車類の大衆的普及にともない、神戸市では交通事故問題が深刻化した（図 1 神戸市の交通事故件数と死傷者数の推移）。そうしたなかで、神戸市の方面教育を通じた子どもの交通安全指導の取り組みはいかなる性格をもっていたのか、またそこにはいかなる課題が見いだせるのかを明らかにした。本成果については、現在、論文執筆中である。

図1 神戸市における交通事故件数と死傷者数の推移(1948~70年)



〔備考〕神戸市警察局警務部交通課・神戸市交通安全協会『1953年の交通統計』および『昭和29年の交通統計』、兵庫県警察本部・兵庫県交通安全協会『交通統計』（1956～58年、60年、63年）、兵庫県警察本部『交通年報』（1959～63年、70年）をもとに作成。

(4) 千葉県の銚子市および九十九里浜沿岸の漁業地域における 1950 年代の長期欠席問題や米軍基地問題の歴史について検討した。千葉県では子どもの長期欠席問題に対応するため、県教育委員会が「長欠対策教員」などを設置（図 2 長欠対策教員・基地対策教員配置校）、県内の海岸地区の学校に設けた「補導学級」を担当させることとした。市教育委員会の中には独自に長欠対策のための教員を設けるところもあった。また、九十九里浜沿岸では米軍基地問題の影響により、基地周辺ではさまざまな教育問題（長期欠席問題を含む）が生じていた。こうした諸問題に学校関係者がいかに対峙したのかを本研究では追究した。本成果については、今後、学会発表を経て、共著を出版する予定がある。

図2

千葉県における長欠対策教員・基地対策教員配置校（1958年）



〔備考〕「千葉県教育の現状から課題へ」、千葉県教育委員会『教育広報』特集号(第49号、1958年10月)より作成。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

鳥居和代「戦後の神戸市における方面教育と訪問教師制度の展開 子どもの長期欠席・不就学問題への取り組みに焦点を当てて」教育史学会『日本の教育史学』第59集、2016年10月、13頁、71-83頁(査読有)

鳥居和代「神戸市の方面教育の始まり その前史から1950年代までの展開」神戸史学会『歴史と神戸』第306号、2014年10月、15頁、27-41頁(査読有)

[学会発表](計1件)

鳥居和代「戦後都市の子どもを取り巻く教育問題への取り組み 神戸市における方面教育と訪問教師制度に着目して」教育史学会第58回大会、日本大学(東京都千代田区)、2014年10月5日

6. 研究組織

(1)研究代表者

鳥居 和代(TORII, Kazuyo)
金沢大学・学校教育系・准教授
研究者番号：30422570

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

なし